



指導者運転免許自主返納のエピソード

その他、自動車運転の中止や運転免許の自主返納のエピソードをご紹介します。
これらは、こうすればいい、こうしてはいけないという例として示すのではなく、エピソードとして参考にしていただくことを意図しています。

信頼関係のできている医師から返納を勧めてもらったところ返納を決めてくれました。

本人と家族でサポーター講座に参加したら、息子が夫の支援に協力的になりました。

バッテリーの故障を直さないでいましたが、本人が業者を呼んで修理してしまいました。

本人の運転する車に乗って、いろいろ指摘すると返納となりましたが、本人がふさぎ込むようになってしまいました。

主治医に運転をやめるよう伝えてもらいましたが、別の医師に診断書を書いてもらい更新してしまいました…。

どうしても返納に応じてもらえず、同居家族との関係が悪化しないよう、やむなく遠くに住む娘が免許を取り上げました。

車のカギを隠しましたが、本人がディーラーを呼び鍵を入手していました…。

勢いで返納したものの、受診や買い物など、弟に負担をかけすぎると後悔するようになりました。

免許証の返納と車の処分を同時に行い、本人にも同席してもらうことで返納後も混乱が生じませんでした。



本冊子は、国立研究法人「医療研究開発機構（AMED）」の認知症開発研究費「血液バイオマーカーと神経画像検査によるBPSDの生物学的基盤の解明、および認知症者の層別化に基づいたBPSDケア・介入手法の開発研究」の分担研究「BPSDケアレジ研究とJ-BIRD-PNBにおける非生物学的収集項目決定と質管理」の成果物として作成しました。
本冊子の作成にあたっては、認知症介護研究・研修仙台センター開発「初めての認知症介護」の構成を参考にしました。

発行：認知症介護研究・研修東京センター

笑顔で過ごしたい 認知症の人と家族のための暮らし方のヒント



⑱ 自動車運転継続を強く希望される時には

- ・免許更新の際に検査で「認知症の疑い」と判定されたが、医師の受診には気が進まない。
- ・認知症と診断されたが運転免許の返納に納得できない。



この冊子では、現場での実践や支援の知を参考に認知症の人と家族がとともに暮らすときのヒントをまとめています。

■順番に読む必要はありません。気になるところから使えます。

■すべてを行う必要はありません。合うものだけ選べます。

■うまくいかないときは、やり方を変えても大丈夫です

Q. どうして運転免許を返納したくないの？



A1. 自立・自由が脅かされるように感じるから

運転ができないことで、自分で行くところを決めたり、気軽に出かけたりということが難しくなると思い、返納したくないという気持ちになる可能性があります。

試してみたいこと

尊重する姿勢を示す

自立・自由をできる限り尊重するような方法を話し合いや行動の中で考えていけるとよいでしょう。

A2. 突然のことで受け入れられないから

認知症と診断され、更に運転できないとなると、「まだ大丈夫なのに」と感じることがあります。心の準備ができていまま話が進むと反発したくなることもあります。

早めに話し合いをはじめる

認知機能の低下が生じる前など、できるだけ早めに話し合いを始め、時間をかけて考える余地をつくることも大切です。

A3. 在宅生活が続けられるか不安だから

買い物はどうか、移動はどうか、受診は？など人の手を借りないと生活できなくなる不安が強くなる可能性があります。

1. 気持ちを聞く 2. 対応を具体的に決める

話をよく聞き、気持ちを受け止めてもらえると、気持ちが楽になって、どうすればいいか前向きになれることがあります。

移動や買い物、受診など免許を返納することで生じる課題にどう対応するか整理ができると安心できることがあります。

A4. 身分証がなくなると思うから

免許は身分証明だけでなく、長く積み重ねた人生の証のように感じられることがあります。身分を示すものがなくなる不安が強くなる可能性があります。

運転経歴証明書のことを伝える

自主返納すると運転免許証とほぼ見た目の変わらない、運転経歴証明書がもらえ、自治体からの特典などもあることを伝えると、安心につながる。

認知症の人の自動車運転と免許返納に関する基本的な考え方

認知症の方にとって運転免許証の返納は、自立と自由の著しい喪失を意味し、難しい決断となる場合があります。

しかし、認知症の人と通行者の安全を第一に考えることが大切です。現在、道路交通法では、認知症であると判明したときには、公安委員会により、その人の免許を取り消すことができることになっています。認知症が進行性の疾患であることを考えれば、重大な事故につながる前に、気持ちや生活を整え、運転免許を返納できるよう支援する必要があります。強引に運転できなくする方法をとると、その後の生活やケアに混乱が生じることも多いためできるだけ自主的に返納が決定できることを目指します。

自主的な返納が難しい場合は、家族の精神的負担は大きいものになりがちです。抱え込まず、専門職の協力を得ながら対応するようにします。

試してみたいこと

共感と理解をもって話し合う	<input type="checkbox"/> 「返納したくない」という気持ちは「そうなのね」などと受け止める。 <input type="checkbox"/> 返納することで現実的に困ることを尋ね対策を立てる。 POINT! 認知症の人が免許を返納することについて自分で考えていくためには、自分の気持ちを受け止めてもらえることが第一歩になります。必ずしも家族でなくてもいいですが本人の感じている様々な葛藤をわかってくれる人がいると前向きに検討しやすくなります。
事故が起きる前から少しずつ話し合う	<input type="checkbox"/> 安全上の懸念が生じる前に、運転断念の可能性について話し始める。 POINT! 突然運転断念を迫られては納得できない気持ちも高まります。必要に応じ、専門職の協力を得ながら早めに話し始めることで、時間をかけて考える余地を作ることが大切で、運転断念を急に迫られないため自分で決定しやすくなります。
本人が同じような立場の人の話を聞く	<input type="checkbox"/> 本人ミーティングに参加して他の認知症の人に相談する。 <input type="checkbox"/> 地域で行われるフォーラムや勉強会に参加して同じような立場の人の話を聞く。 POINT! 専門職から情報が得られるよう、あらかじめ自動車運転について相談したいという希望を伝えておけるとよいでしょう。
移動手段について話し合う	<input type="checkbox"/> 生活に必要な移動をどのように行うのか洗い出し、対応を決定しておく。 <input type="checkbox"/> 車の維持にかかる費用と日常的に介護タクシー等を利用する費用を比較してみる。 POINT! 現在、車を利用してどのようなところに移動しているのか、明らかにどこに行くときはどのような手段を用いるか等を話し合います。家族、親戚、近所の支援や地域の介護サービス等現在利用できる支援の可能性も併せて列挙できると検討しやすいです。
日常的な買い物や受診について話し合う	<input type="checkbox"/> 食料や日用品の配達や訪問販売の利用可能性について話し合う。 <input type="checkbox"/> 家族、親戚、近隣の支援が得られる可能性について話し合う。 <input type="checkbox"/> 受診の頻度等を確認し、受診の支援を誰がどのように行うかを決めておく。 POINT! 買い物の頻度や内容について明らかにし、どのようにすると必要な食糧や日用品が確保できるか、必要な受診ができるかを話し合います。
運転免許証を自主返納するメリットについて共有する	<input type="checkbox"/> 自主返納すると、運転経歴証明書が発行され、身分証明書となることを伝える。 <input type="checkbox"/> 自治体によっては、公共交通機関の割引等特典が準備されていることを伝える。 POINT! 地域によっては、自主返納の特典について書かれたチラシなどが準備されており活動しています。内容を確認しておくとうれしく返答できます。
継続的なサポートを得る	<input type="checkbox"/> 運転しない生活にどのように適応しているか、定期的に本人に確認し、励ましとサポートを得る。 POINT! 免許返納後、計画通りに生活が送られているか、専門職と情報を共有し、必要に応じて支援を得られるように計画しておけると安心です。

ワンポイント

運転をどうするかは簡単に結論が出ることもあります。本人・家族でかかえこまず、主治医や相談窓口とつながりながら、安全と本人の思い両方を大切に考えていくことが望めます。